

発表者	内 容
自評	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジグソー法に取り組んだ。本時は、ジグソー法とクロストークをした。 ○ クロストークの時の支援、言葉がけをどうするとより効果があるかが課題。
質問	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジグソー法での学習は過去にしたのか。何回目か。 → 今回が初めて。
質問	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「台風、地震、土砂災害」の3つをした理由 → 特徴的な災害である。3つにしたのは、ジグソー法をするときの班の移動・構成を考えたから。4つだと、全てがその班に揃わない。
質問	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考にしていた冊子の入手法 → 先日の土砂災害の学習会で。
質問	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土砂災害のエキスパートは、それぞれ使用した資料が違ったが。 → あのグループの子ども達は、共通のこれ一つとせずに、自分が調べて作ったものを使った。それもよいとした。 ひなさんは、警戒レベルについて調べていた。よかったと思う。
質問	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回、自分で調べることを選んでいたが、4年生での社会科の選択はどうだったか。 → 小林より。「地震と火災」で、テストとの兼ね合い、また指導者の決定でということだったので、全員が「火災」の学習をした。
グループから	<p>1班</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内（エキスパート）の発表の時の声が小さい。 ○ 使用した資料の裏に言葉を貼っている班があった。気になる。 ○ クロストークでは、「練り上げ」の段階であってほしい。エキスパートとして、これだけ調べてもまだ分からないことがある。じゃあどうするか、そこで学習が深まると思う。 ○ 板書について。先生が自分たちにできる取り組みを書いていったのだが、いくらか分類して書くとよい。板書を使って振り返りもできる。我が家では、この準備はできている、できてないからやろう、という具合に使うといい。

<p>指導助言 教頭</p>	<p>2班</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エキスパートとして発表説明しているが、その資料、例えばグラフの単位を含めて、何を表しているかその内容が分かってなかったようだ。 ○ 「自分達にできること」は、「災害前」のことを指していると思うのだが、児童は「前」「後」の両方があった。 ○ ジグソー法で、その発表が説明重視になって、クロストークが進まなかった。クロストーク、話し合いの進行ということでは、司会者を含めて話し方を経験することが必要。クロストークの時間が始まって、話し合いになっていないグループがあった。 ○ クロストークを活発にする手立てとして、「地震」の発表が終わったら、「地震」の発表内容について質問をするとよい。3つが終わってからだと、前の二つを忘れてしまうのではないかな。
<p>校長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく調べていた。そして、やや情報過多だったかもしれない。 ○ ユニバーサルデザイン化された授業の3つの要素が必要で、焦点化、見える化、共有化である。それをしながら、児童のレベルに落とし込んでいく。社会科は、ユニバーサルデザインがやりやすい教科。 ○ 見える化について。この資料の中の「日本で土砂災害はどれくらい起きているか」のグラフをそのまま提示してもピンとこない。これを、平均すると1日に10件の土砂災害と提示すると実感ができるのでは。 ○ また、「日本の土砂災害危険箇所」をカラーで見ると、全土ほぼ真っ赤である。上島も当然真っ赤。どんな対策をとっているか、そしてとっていくかを考えさせる。 ○ 日本全体、地震のことを加えると危険度はさらに大きい。どうしてこの危険だらけの日本に、みんなはいるのか、その答えを見つけないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のエキスパート活動で主体的、本時のジグソー活動で対話的な授業だった。 ○ クロストークを工夫すると、深い学びになるだろう。 ○ 近年、台風が強大になる傾向がある。そして、「台風の巨大化は温暖化の表れ」ととらえると、温暖化防止に向けて私達自身の生活を振り返る。これは地球規模の大きな視点だ。災害を起こさないようにするためにどうすればよいか。これも大切。

--	--